



白桜小だより

平成30年度 6月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成30年 6月 1日発行

万緑の中や吾子の齒生初むる

校長 宇賀神 佳子

これは中村草田男の句です。校庭や近くの丘陵の木々が青々として来るこの季節になると、決まって私の脳裏をよぎり、言葉で表現してみたくになります。「万緑」という言葉に、何ともいえない生命の躍動感と、そして生まれて間もない赤ん坊の「生きて伸びていく力」とを感じるのです。まさに、この季節を的確に詠んだ句であると思います。

運動会の練習では、真夏の皮膚を刺すような強い日差しもありましたが、子どもたちがもてる力をいっばいに発揮して、表現や短距離走、団体競技に打ち込む姿がありました。

こうした生き生きと動く子どもたちの姿が草田男の句に重なり、ここで伸びようとしている子どもたちの力を、真っ直ぐよい方向に導きたいと、改めて強く願いました。

先日、歴史に関わる本を読んでいたら、鎌倉幕府が開かれた年を1185年としていたので、あれっと思いました。小学生のときに1192年を「いい国造ろう鎌倉幕府」と唱えながら語呂合わせで覚えた記憶があります。調べてみると、源頼朝が征夷大將軍に命ぜられたのが1192年で、実は1185年には既に鎌倉に役所を構え、実質的な政務に当たっていたのだそうです。せっかく苦勞して覚えた知識なのに…と、少しがっかりしました。

傍らの赤ん坊が成人を迎える頃、職業の大半がAI（人工知能）に変わられる時代の到来とも言われています。私たちが獲得してきた知識や価値観はどのようになっていることでしょうか。通信や移動の手段も、想像できないほどの変わり様が予想されます。

ただ、「外国語」を例に取れば、子どもたちは言語を習得しながらも、同時にその背景にある文化や伝統も学んでいるということです。自分の思うこと、伝えたいことを表現する際にも、どのような語彙を選択すれば、相手と適切に意思疎通ができるかを、様々な言語活動を通して経験しています。これは同時に、国語科での学習にも、他教科での学習にも汎用的に活用できます。子どもたちが外国語の学習を通して得たものの見方・考え方は、日本の文化や伝統を見つめ直すことができ、日本のよさを改めて実感することでしょう。全校朝会校長講話では、努めて日本の季節感や「縁」に関する話をしていますが、外国の文化や言語と「比較する」という視点をもってほしいという願いに基づくものです。

白桜小では、「自律する力」「協働する力」「参画する力」の育成に努めています。これらの力は、学習面だけではなく、集団での活動や学校生活でも汎用的に生きていく力でもあります。こうした「自己」を形成する根本的な力を育成することを通して、子どもたちには「万緑」にもまして、さらに勢いを得て力強く伸びてほしいと願っています。